

第23回 千城台地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

1 日 時 平成26年3月7日(金) 18時30分～20時50分

2 場 所 千城台公民館 2階ホール

3 出席者

- (1) 委 員 20人 *欠席 2人 植田委員(代理出席:鈴木氏)、
中村委員(代理出席:諸橋氏)
- (2) 事務局 6人 *教育委員会企画課 大崎課長、池田統括管理主事、市倉課長補佐、
小口主査、安井主査補、望月主査補
- (3) 傍聴者 5人

4 報告・議題

- (1) 【報告】 前回協議会およびそれ以降の動きについて
- (2) 【議題1】 千城台地区の適正配置について
- (3) 【議題2】 次回開催日時・場所について
- (4) 【議題3】 その他

5 会議資料

資料1: 第14～22回千城台地区学校適正配置地元代表協議会(概要)

資料2: 協議の進め方

資料3: 中学校統合に関する地元協議会としての方向性

参考資料1: 中学校の生徒数推計・統合シミュレーション

参考資料2: 千城台地区における中学校の適正配置の必要性 論点整理表

6 議事の概要

- (1) 【報告】 前回協議会およびそれ以降の動きについて

事務局が前回協議会での協議内容及び協議会以降の動きについて説明した後、協議会委員が「中学校統合に関する地元協議会としての方向性」について、各団体で確認してきた状況を報告した。

- (2) 【議題1】 千城台地区の適正配置について

各団体の報告を踏まえて、中学校の統合について協議を行った。その結果、地元協議会の方向性として、「中学校の統合については、適正規模とするため必要性はあるが、統合は見送る」ことを大筋で協議会の合意とし、今後、小学校の統合協議を進める中で、再度、中学校の問題についても検証していくこととした。

※追記 「中学校の統合については、今回は見送る」ことについては、後日、小学校保護者代表の一部委員から、「合意はしていないため、全員一致を原則とする協議会の議決とは認められない」旨のご意見をいただいた。

- (3) 【議題2】 次回開催日時・場所について

次回協議会は、6月上旬頃に開催することが確認され、日時等の詳細については、会長・副会長と相談して改めて各委員に通知することとした。

- (4) 【議題3】 その他

特になし

7 発言要旨

(1) 会長挨拶（氏家会長）

本日は、「中学校統合に関する地元協議会としての方向性」に対して、各団体で確認してきた内容を報告し、協議することになっており、一定の方向性が決定できればと思う。決定にあたっては、最大公約数的な合意を得て納得していければと考える。次回からは、新体制の中で、前に進んだ形で協議が進められるようお願いしたい。

(2) 報告

報告 前回協議会およびそれ以降の動きについて

〈菅原議長〉 「前回協議会およびそれ以降の動き」について、事務局から報告をお願いする。

〈事務局〉 「前回の協議」については、資料1・2をご覧ください。既に議事要旨が確定されているので、簡単に説明する。

（前回協議された概要）

○事務局が、「千城台地区における中学校の適正配置の必要性 論点整理表」を中心に説明を行った後、協議を行った。

○協議の結果、中学校の統合の必要性については、「両中学校とも適正規模でないため、統合の必要性はあるが、中学校の統合は、強行せず見送ることが妥当である」ことが確認され、今回の協議会で、再度確認するとともに、小学校の統合協議を進めることとした。

なお、資料3「中学校統合に関する地元協議会としての方向性」については、あらかじめ協議会委員に周知用文書として送付しているものである。

次に、「前回協議会以降の動き」について、以下のように報告する。

○事務局が出向いての説明・意見交換

2月6日（木）千城台南小学校 保護者対象説明会

2月23日（日）第24地区町内自治会連絡協議会 会長会

〈菅原議長〉 次に、各団体の報告に入る。「協議会としての方向性」について、各団体で確認してくるようになってきているので、ご報告をお願いしたい。「協議会としての方向性」に対する報告のみとする。

〈鈴木氏〉 北小では、2月のPTA運営委員会の中で、協議会の報告を行った。中学校の統合については、以前と同じで意見が分かれている状況である。

[植田委員代理]
〈佐々木委員〉 東小では、2月6日のPTA本部会議で報告し、13日の運営委員会及び14日の新入生説明会で、資料を配布し説明した。結果としては、「中学校の統合の必要性はある」は大多数賛成であるが、「強行せず見送る」については「強制せず」という言葉は微妙だという意見が出たことと、東小としては「統合してもらいたい」といことで、協議会の方向性に対して異論があった。「統合せずに2つの中学校のままであるならば、東小は中学校に上がる際、どちらかの中学校に統一して通学させてほしい。」という意見である。

〈栗山委員〉 南小では、2月6日に教育委員会を呼んで保護者対象説明会を行うとともに、中学校統合のアンケートを実施した。アンケートについては、前回19%だったが、今回は77%の回収率となった。そのアンケート結果を踏まえて、PTA本部会議で話し合った結果、「中学校の統合を見送る方向性は納得できない。但し、協議会として決定したのであれば、やむを得ない。」となった。また、方向性の文言については、「見送る

ことは妥当である」については、「妥当とは思えない」という意見である。

- 〈奥田委員〉 旭小では、1月16日のPTA理事会で報告し、書き込み式アンケートも実施した。結果としては、「中学校のご意見はもっともであると思うが、マイナス部分を尊重するのではなく、統合した時のプラスの部分を重視して前向きに考えて欲しい」という意見が半数以上あった。一方、反対の意見としては、「小学校と同時に統合しないのならば、やらない方がよい」「様子をみて統合すべきである」という意見も出ている。
- 〈來住委員〉 西中では、「現状のまま、統合は見送る」ということに賛成である。但し、小・中学校の統合は切り離せないということであれば、統合はやむを得ないという意見もあった。その際は、地域コミュニティとの関係から、自治会と十分協議して決めていただきたい。
- 〈諸橋氏〉 北1丁目自治会の役員会では、中学校統合を見送ることについて、大多数が賛成であった。主な意見としては、「2校残した方が、生徒指導上分散することや競争心が出る」ことが出ている。一部反対意見としては、今、統合しないと、将来的にまた統合協議をしなければならないので統合してしまった方がよい」という意見もあった。
- 〈綿貫委員〉 西町自治会の役員会では、中学校統合を見送ることについて、大多数が賛成であった。自治会の住民に対しても、役員会の会議録を配布し周知している。
- 〈谷野委員〉 東町自治会では、報告したが、特に意見は出していない。
- 〈多田委員〉 南町自治会では、3月2日の役員会及び班長会にて、約60名に説明した。役員会では、「小学校は早く統合した方がよいが、中学校は強行する必要なし」ということになった。班長会では、統合の関心が薄く、特に意見が出なかった。今後は、30日の総会で、本日の協議結果について報告する予定である。
- 〈中藪委員〉 第五団地若鳩会でも、統合については関心が薄い状況である。自治会の役員で、現在、南中の保護者からは、「学校から統合する方向であると聞いているが、どうなるのか。」という意見があった。
- 〈大澤委員〉 北小では、2月26日の「6年生を送る会」の後に、学校評議会があった。その中で、協議経過を説明した。意見としては、「千城台地区は、1町1校の配置がよいのではないかと。学校の配置も、バランスよくしてほしい」ということである。
- 〈石原委員〉 西小の学校評議員としては、特にない。
- 〈鶴岡委員〉 西中の学校評議員としても、特にない。
- 〈山崎委員〉 南中では、2月26日に学校評議会があった。都合により参加できなかったが、学校からの資料を見ると、また荒れてきているようである。保護者からも、「統合して人数が増えることを考えると、現状のままでもよい」という意見が出ている。
- 〈鈴木委員〉 旭小の学校評議員としては、特にない。
- 〈酒井委員〉 南小の学校評議員としても、特にない。
- 〈土屋委員〉 東小の学校評議員としても、特にない。
- 〈笹川委員〉 南中では、PTA本部会に報告するとともに、再度、全校にアンケートを実施した。結果としては、103名の回答があり、「統合を見送る」が85、「統合する」が18となった。「学校の現状から、統合を見送る」という意見がほとんどである。
- 〈大和久委員〉 西小では、PTA理事会で意見を聞いた。特に、中学校にも子どもがいる役員に聞いてみた。主な意見としては、「今の中学校の状況については、よいと思っていない」「中学校がよくなってほしいことから、統合が必要ならば、やってほしい」「中学校では、生徒にもアンケートをとったが、子どもの意見をどこまで尊重すべきかは大人の判断で良いのでは。」という意見が出ている。
- 〈山崎副会長〉 南中区育成委員会では、前回協議会の内容について、報告はしている。

- 〈大澤委員〉 西中区育成委員会では、3月4日の理事会で、中学校統合の方向性を確認し合い、納得している。その中で、御成台の中学校区のねじれ問題については、小・中学校に子どもがいる保護者から、西中区育成委員会主催のキャンプには中学生は参加できるが、小学生は南中区の東小に通っているので参加できないなど、育成委員会主催の行事の参加に支障があるということを知っている。その他の支障は聞いていない。サポートセンターとの話し合いでは、統合した場合、パトロール等も広範囲になるということが出ている。
- 〈氏家会長〉 2月23日に、第24地区町内自治会連絡協議会会長会を行い、中学校統合の方向性を確認した。教育委員会に、中学校の適正配置における論点整理表等について説明してもらった。前回協議会でも報告したが、約7割が中学校は現状のままとなるA案を支持していることから、今回の一定の方向性については異議なしとなった。ここで、話は変わるが、会長会で配布した「避難所自治会グループ及び役割分担表」を配布する。今後の地域の計画として、参考にさせていただきたい。

(3) 協 議

議題(1) 千城台地区の適正配置について

- 〈菅原議長〉 本日も、千城台地区の中学校の適正配置について協議する。先ほどの各委員からの報告を踏まえて、意見をお願いします。まず、事務局から何かあるか。
- 〈事務局〉 先ほどの報告状況について、確認する。協議会委員22団体の内、賛成もしくはやむを得ないがおよそ11団体、保留8団体、方向性に反対が3団体（西小、東小、旭小）であったかと思う。特に、反対とした団体の理由について出していただき、それについて協議してみてもどうか。
- 〈栗山委員〉 南小も、「妥当ではない」という意見であり、賛成ではない。
- 〈石原委員〉 反対意見については、報告の中ですでに出されている。
- 〈栗山委員〉 「子どもたちのより良い教育環境」を目指して適正配置を進めていることを、協議会委員に改めてお願いしたい。
- 〈中菌委員〉 過去の協議経過についてはわからないが、協議会としての方向性は「中学校は現状のままとし、小学校を優先して決める」ということかと思う。中学校については、現状では大きな問題がないので、とりあえず現状のままとして、小学校の統合が終わってから、統合すればよいのではないか。
- 〈佐々木委員〉 東小では、中学校のねじれが生じていることから、1つに統合してほしい。中学校を2校残すとなると、ねじれを解消できないことから、中学校の統合協議が始まっている。
- 〈中菌委員〉 その経緯については理解していない。
- 〈菅原議長〉 前の協議会で、「中学校2校とも、各学年3クラスずつの規模である。これが、どこかの学年が2クラスになったら、検討してみてもどうか」という意見が出ている。子どもたちの教育を考えた場合、今すぐに統合するのが良いのかどうか、協議していただきたい。
- 〈栗山委員〉 2つの学校を統合したら、かえって良くなるという結果もあり得るのではないか。
- 〈佐々木委員〉 協議の道筋をつけてもらわないと進まない。自治会と保護者からは、意見が出し尽くされた。したがって、有識者に依頼して判断してもらうしかないのではないか。結局、統合して学校が荒れるかどうかはわからないし、荒れた場合の責任も私たちには取ることができない。

- 〈氏家会長〉 本日は、中学校の方向性を協議会として出し、各団体で持ち帰って確認するというステップを踏んできている。資料3の文章で周知しているとおりで、賛否両論あることは私たちも十分に理解しているはずである。その上で、協議会の出した方向性に対して先ほどの報告では、7～8割の団体は賛成もしくはやむを得ないということである。個々の意見を聞けば、今まで協議会で出てきたような賛否両論は根強くあるということはあるが、協議会として、それらに対してどこまで協議していくべきなのか。協議を尽くした上で、反対意見をお持ちの方々の納得はできないまでも、協議会の出した方向性なので、理解をしてもらえるか、どうかが大切かと思う。
- 〈土屋委員〉 先ほどからの反対意見も理解できる。みんなで知恵を出し合って協議してきた。前回協議会で要望したが、先行地区で実際に行った内容について、事務局から説明してもらおう中で、検討してみてもどうか。このまま話し合っても前に進まないと思う。
- 〈大和久委員〉 最近の協議会では、自治会側と保護者側の関係が良い状態ではない。保護者は、自治会の一員である。保護者の意見も自治会の意見であるということを自治会側はどう考えているのか。
- 〈氏家会長〉 役割分担だと思う。PTAとしての役割、自治会としての役割があり、それぞれの立場からの意見となる。お互いが同調していく必要はあると思うが。
- 〈栗山委員〉 自治会は、中学校側の統合反対の意見を理解して、判断したのか。
- 〈氏家会長〉 各自治会においても、中学校統合の必要性は認めている。
- 〈事務局〉 資料3の周知文にあるとおりで、協議会では、中学統合の必要性は認めている一方で、当事者である中学校の保護者は統合を反対していることと、その反対理由（下に記載）を踏まえて、統合を見送る方向性を協議会として出しており、全団体が前回の協議会の流れを踏まえて方向性を確認しているはずである。
- （中学校が、統合を反対する理由）
- ・両中学校とも小規模ではあるが、今後も学年3クラス（9クラス規模）を維持できる推計であること
 - ・今の規模でも小規模校としての支障はなく、満足した学校生活が行われていること
 - ・中学時代は思春期、受験期といった繊細な時期であり、その統合については慎重に検討してほしいということ
 - ・現在の不登校など問題を抱えた生徒の対応や、過去の歴史を踏まえ、現状の学校規模で、地域に2校存在する状況でバランスが取れていること
 - ・今の中学校の状況や実態を一番よく知る中学校保護者の意見を尊重してほしいこと
- 〈多田委員〉 事務局のとおりである。中学校は、小学校に比べて議論しやすかった。早急に中学校を統合する必要はないと判断した。
- 〈栗山委員〉 中学校保護者会の意見に同意したのか。
- 〈多田委員〉 今までの経緯を十分説明した中で、自治会として決定したことである。
- 〈中藪委員〉 今はこのまま行こうということである。中学校に同意したからだけではない。
- 〈多田委員〉 小学校側の意見も十分説明した結果として、判断したことである。
- 〈山崎副会長〉 前回協議会では、笹川委員から、「現在、各学年3クラスずつあるが、2クラスになったら統合してもよい」という意見が出ている。今統合するのか、もう少ししてから統合するのかということかと思う。
- 〈石原委員〉 協議会としては、統合できるのであれば統合したいということは、全員一致している。統合の必要性は認めている。私としても、学校は小さいよりは大きい方がうまくいくと思う。将来的には統合を考えていかなければいけないと思う。東小の中学校のねじれについても検討する必要がある。

- 〈佐々木委員〉 東小としては、どちらかの中学校に統一して通わせていただきたい。
- 〈事務局〉 学区変更については、当該自治会の総意が必要となる。自治会の中で所属団体の変更等も含め、地域コミュニティとの整合性も考量し、十分検討していただくことになる。学校の保護者の意見だけでは、要望できない。
- 〈氏家会長〉 解決策はある。通学指定は、学事課が所管となると思うが、まず御成台の通学指定がなぜ東小、西中となったのか、事務局で調査していただきたい。
- 〈佐々木委員〉 更科小学区である下田町については、学区外通学承認地域として、最初は南中であったが、途中で西中となった経緯がある。
- 〈事務局〉 御成台について、資料からわかることは、当時南中は大規模校であり、西中は少しずつ減ってきている状況であった。通学指定においては、自治会にも意見を聞いて決定している。
- 〈追記〉 平成元年10月の教育委員会会議で御成台地区の通学区が決定している。
当時、南中は生徒数980名(24学級)、西中は516名(13学級)
その他、学区に関する資料は第19回協議会の資料4参照
- 〈氏家会長〉 当時の経緯を知る生き証人が地域にもいるはずであるので、わかる方は教えていただきたい。御成台全体として学区変更するのか、市で承認されている理由による個々の学区外通学でよいのか、検討していく必要がある。学区変更等については事務局で整理してほしい。
- 〈大和久委員〉 ここで、言いたいことがある。唯一、全会一致で決まってことは、小中連携である。一度、議論してほしかった。できれば中学校を1つにして、小学校をまとめていく形にした方が、小中連携がしやすいと思う。千城台地区をより良くするために、千葉市初の試みとしてバルーンを上げる方向で、前向きに進めたかった。前の協議会では、中学校が2校でも、小中連携はできると聞いている。言いたいのは小中連携を柱にして、協議していけばよいということである。
- 〈中藺委員〉 中学校を1つにして、ピラミッド型で統括することだけが正しく、うまくいく方法であるというは疑問である。現在は、多様化していて、様々な考えを持つ人がいて、発想や対応を必要としているので、一つにすればうまくいきやすいとは限らない。それ以上にこの協議会で、何年、学校統合を協議しているのか。その間、子どもたちの環境は良くなっていない。これから何年協議していくのかを考えた場合、自治会としては、まず小学校を早く統合し、子どもたちの環境を何とかすべきだと判断した。学区変更で解決できるのであれば、それでもよいのではないか。
- 〈氏家会長〉 学区変更も、適正配置の1つの方法と考えていけばよい。
- 〈大和久委員〉 現行学区のままという原則で話し合ってきた。学区変更は、申請すれば簡単にできるという話は今までなかった。
- 〈氏家会長〉 千葉市は学区制が原則であり、現行学区で考えるのが基本である。
- 〈事務局〉 要望書を提出すれば、学区変更が簡単に通るということではない。教育委員会として、現地調査を行い審査し、通学区域調整検討委員会に諮り、十分検討することになる。決定する場合は、教育委員会会議において通学区域に関する規則の改正を行う。また、現行学区を原則として協議を進めていただいているが、御成台については、小学校は他の学校にすることは難しいということでもとまった経緯があるが、中学校については、特に意見は出ていない。
- 〈奥田委員〉 御成台については、東小内の自治会代表である谷野委員からアンケートを出してもらったと思う。
- 〈谷野委員〉 御成台としては、通学環境等から北小には通いたくない、東小のままがよいというこ

とであった。中学校については、特に意見は出ていない。

- 〈佐々木委員〉 そのとおりである。御成台の保護者の意見として出されている。
- 〈綿貫委員〉 他県では、学区が自由化されているところもある。
- 〈多田委員〉 学区変更等の意見が出ているが、中学校については現状のままでよい。速やかに小学校の統合を進めていくこととしてよいのではないか。
- 〈奥田委員〉 小学校側では、中学校の統合を進めてほしいという意見が出ている。なぜ統合しないとなったのか説明できない。
- 〈栗山委員〉 そのとおりである。理由が説明できない。
- 〈綿貫委員〉 統合のメリット・デメリットから考えたとなると思う。
- 〈石原委員〉 「強行せずに見送る」ということがどうかという意見も出ている。
- 〈中藪委員〉 「統合しない」ということではなく、「先送りしましょう」ということかと思う。
- 〈佐々木委員〉 「今、統合しなくてよい」という正当な理由がわからない。
- 〈多田委員〉 中学校の現在の生徒及び保護者アンケートを踏まえて、判断した。
- 〈中藪委員〉 それを踏まえて、中学校は今統合しなくてもよいとなった。
- 〈栗山委員〉 前回協議会で、小学校側は中学校を統合してほしいという意見が出ていることも自治会は聞いてくれたのか。
- 〈多田委員〉 先ほども述べたが、それについても説明し、判断した結果である。
- 〈氏家会長〉 各団体に持ち帰り説明した中で、納得しない方々がいる場合は、この協議会のオブザーバーとして出席してもらえばよい。熱心に議論している姿を見てもらってはどうか。
- 〈山崎副会長〉 小学校側では、持ち帰って説明しなければならぬことを心配していると思う。
- 〈石原委員〉 「強行せずに」については、どう説明するか。
- 〈氏家会長〉 「強行せずに」については、「今はやらない」という意味である。
- 〈大和久委員〉 できれば小中同時に統合したいという意見も出ている。
- 〈氏家会長〉 中学校の現状を考えての判断である。
- 〈鶴岡委員〉 参考資料2「千城台地区における中学校の適正配置の必要性 論点整理表」の中で、統合した場合、クラス・生徒の数の項目に×が2つ書かれている。1つ目は、生徒同士や教員との人間関係が希薄になりやすいと思われること。2つ目は、統合すると生徒同士のトラブルが増える可能性があること。学校現場の経験から、どちらもそうなるとは思わない。統合して生徒が増えないと、教員も増えない。教員が増えることにより、細かな対応ができると考える。中学校からも、そのような意見を聞いている。
- 〈大和久委員〉 40年近く、この千城台地区に住んでおり、よくなったと思わない。昔の活気を取り戻し、階段を一步步登るが如く、少しずつでも良くなってほしいという思いで進めてきた。
- 〈多田委員〉 言っていることはよくわかるし、将来的には統合はしなくてはならない状況が来るとは思う。次の役員に引き継ぐ予定であるが、結論の出ない議論は続けたくない。
- 〈中藪委員〉 大和久委員の熱い思いはよくわかる。地域の活性化を図るためにも、いずれ近い内に、統合はしなくてはならないが、まずは、小学校から進めたい。
- 〈佐々木委員〉 統一テストの結果から、千城台地区は、千葉市の中でも学力が落ちていると聞いている。2クラスで40人近くの学級よりも、3クラスで1クラスの人数が少ない学級の方が、先生方からよりきめ細かな指導を受けることができると思う。
- 〈栗山委員〉 ここで、南小のアンケート結果を伝えておきたい。中学校を統合せずにB案とならなかった場合、A案賛成は25名、A案を含めて他の案に賛成は29名、A案も見送るは34名となっている。
- 〈土屋委員〉 更科中の方が、学力が高いと聞いている。

- 〈山崎委員〉 南中を含め、千城台地区の学力は低下している。子どもたちに刺激を与えないといけないのではないかと。個人的には、統合で刺激を与えた方が良くなると思う。
- 〈氏家会長〉 本日の協議をまとめる。「中学校の統合については、必要性はあるが、統合は見送る」ことで、協議会として大筋で合意としたいがよろしいか。
- 〈佐々木委員〉 賛成できない。
- 〈奥田委員〉 統合はしないということか。
- 〈氏家会長〉 今は、やらないということである。
- 〈大和久委員〉 学力が低下していることから、統合してほしいという意見も出ている。
- 〈佐々木委員〉 全員が納得して合意となるのではないかと。
- 〈氏家会長〉 賛否両論あり、皆さんの総合的なご意見を伺ったうえで、協議会としての総合的に判断させてもらおうと、前回出した協議会の方向性で行くことで大筋、皆さんの納得を得たい。
- いずれにしても、次回から喫緊の課題である「小学校の統合協議」を行う際、小中連携や学校の配置の問題等を協議する上で再度、中学の問題は必ず関わってくる。千城台地区における小・中学校を合わせての総合的な判断が必要になってくる。その段階でもう一度、この中学校の問題を検証するというを踏まえて、本日の協議では、「現時点においての中学校の統合は見送る」ということを協議会の概ね合意とし、次回の小学校の協議を進めていきたい。
- 〈山崎委員〉 大筋で合意では、あいまいではないか。
- 〈中菌委員〉 全員は納得できていないが、協議会の方向性として、そういう方向でやむを得ないという意味だと思う。
- 〈佐々木委員〉 会長に、説明に来てもらいたい。
- 〈氏家会長〉 了解した。各団体で要望があれば、事務局も含め説明に伺わせていただく。
- 〈山崎委員〉 千城台地区の学力低下はどうするか。
- 〈中菌委員〉 前は、美浜区にずっと住んでいたが、学校の規模や体制というよりも、塾などに通わず保護者の意識や経済状況等によることも大きいと思う。
- 〈菅原議長〉 それでは、時間も過ぎていたので確認する。大筋で協議会の方向性のとおり、「中学校の統合については、今回は見送る」こととし、次回は小学校の協議を行う。
- ※追記 「中学校の統合については、今回は見送る」ことについては、後日、小学校保護者代表の一部委員から、「合意はしていないため、全員一致を原則とする協議会の議決とは認められない」旨のご意見をいただいた。

議題（２）次回の開催日時と場所について

- 〈菅原議長〉 協議（２）「次回開催日時・場所」に入る。事務局から説明をお願いします。
- 〈事務局〉 各団体での役員改選があるので、改選後の6月上旬頃の開催とし、詳細について会長・副会長と相談の上、改めて各委員にお知らせするというでいかがか。
- 〈栗山委員〉 曜日についてだが、金曜日のこの時間帯に出席するのは大変であった。土・日開催はできないか。
- 〈氏家会長〉 次年度の新体制になってから、最初の協議会で委員に確認することとしたい。
- 〈山崎委員〉 来年度、交代する方はいるのか。
- 〈佐々木委員〉 次年度の総会で決定されないと、正式には教えられない。
- 〈事務局〉 交代する場合は、事務局にも連絡をお願いしたい。
- 〈山崎委員〉 交代する場合は、引き継ぎをしっかりと行い、最初に戻るような話し合いにならないよ

うにお願いしたい。

- 〈事務局〉 前回、ご質問や資料提供の要望をいただいた資料については、本日も用意してきたが説明する時間が取れなかったので、次回協議会で説明させていただく。
- 〈奥田委員〉 本日、資料だけもらっていくことはできないか。
- 〈事務局〉 事務局がきちんと説明した上で、持ち帰っていただきたいので、次回協議会に配布させていただくことで、ご理解いただきたい。
- 〈栗山委員〉 統合シミュレーションの6通りに戻った資料もお願いしたい。
- 〈事務局〉 了解した。
- 〈菅原議長〉 他になれば、次回は6月上旬頃に開催することとし、詳細は改めて各委員に通知することによいか。
- 〈一同〉 異議なし（了承）

議題（3）その他

- 〈菅原議長〉 その他、委員から何かあるか。
- 〈一同〉 特になし

（4）連絡

- ・本日の議事要旨（案）を作成し郵送するので、確認をお願いする。
- ・次回協議会は、6月上旬頃に開催することとし、会長・副会長と相談し、改めて各委員に通知する。
- ・委員が変わる際には、引き継ぎをしっかりと行っていただきたい。また、事務局による説明・意見交換の希望があれば声をかけていただきたい。

（5）教育委員会挨拶

今年度一年間の皆様の真摯なご協議に対し、教育委員会を代表して御礼を申し上げます。
今年度は、計6回協議会を開催したが、氏家会長、菅原副会長、山崎副会長には、会の進行をはじめとして大変ご尽力いただいた。また、各委員においては、各団体に協議内容を持ち帰り、報告・意見集約し、協議会において代表として述べていただいた。その結果、本日の協議においては、中学校の統合については見送ることとし、今後は再度、小学校の統合協議を行っていくことが確認された。委員の皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

（6）会長挨拶（氏家会長）

長時間にわたり真摯な協議に感謝する。中学校の統合については、一定の方向性の結論が出た。「協議会だより（第5号）」については、協議の経緯を含めてわかりやすく作成したものを千城台地区全戸に配布し周知していきたいと考える。今後は、委員交代等もあるかと思うが新体制の中で、一步前に進んだ段階で小学校の統合協議に入っていきたい。